

取組み内容と主な成果 ~mission4 市民総ぐるみでの支援~

◎一流の文化・芸術による感動の喚起

①ミュージアムツアー

北九州市立美術館で平成29年度から小学3年生を対象とした事業「はじめての美術館」をコンセプトに「美術作品の鑑賞」、「建築の見学」、「市内眺望」の3つを体験



②芸術鑑賞

豊かな情操を養うために、中学生に対して芸術性の高い演劇・音楽・美術等を鑑賞の機会を提供。様々な文化活動に対する親しみを深め、子どもたちの豊かな情操を育み、本市の文化的風土を醸成する



【DRUM TAOの鑑賞】

◎北九州市学校応援基金事業

企業や市民の方からの寄付金（学校応援基金）を活用し、学力・体力の向上や教育的課題の解決に向けた各学校の特色ある取組みを応援する事業

年度	R2	R3	R4
応募校数	21	18	56
採択校数	13	12	22



【永犬丸小学校】
新しくなった図書室で読書を楽しむ児童たち



【曾根中学校】
HUG（避難所運営ゲーム）を体験する生徒たち

◎経済界との連携による学校支援事業

平成23年度に地元企業等で発足した「北九州の企業人による小学校応援団」と連携し、企業がもつ人材や経営のノウハウなどを生かし、出前授業や児童向けの体験学習、教職員を対象とした研修を実施

※H23年度から応援立小学校が対象

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
支援対象学校数	40	70	100	131	131	129	129	129
出前授業・研修の実施校数 （※学校の協賛校含む）	59	129	203	212	252	235	71	158

（北九州の企業人による小学校応援団HPより抜粋）



【左：出前授業】
地図記号を見つけよう
（株式会社ゼンリン）



【右：企業見学】
TOTOミュージアム見学
TOTO株式会社



取組み内容と主な成果 ~mission4 市民総ぐるみでの支援~

◎東京オリンピック・パラリンピック等の国際スポーツ大会を通じた交流

①東京オリンピック事前キャンプとの交流事業

コロンビア選手団の選手と市内の小中学生（小学校6校、中学校1校）がオンライン交流（テコンドー、アーチェリー、フェンシング）



②ホストタウン相手国との交流

ウェールズ（ラグビー）、英国（車いすラグビー）、コロンビア（トランポリン）、タイ（テコンドー）、ドイツ（車いすバスケ）の選手と市内のべ21の小中学校及び特別支援学校が交流



◎世界体操・新体操選手権を通じた交流

①交流事業

市内の小・中・特別支援学校が世界体操・新体操選手権の公開練習及び本大会予選を見学・観戦

小学校33校、中学校3校、特別支援学校1校が参加
合計約2,900人が交流



②一校一国応援運動

市内の全小学校、中学校9校、特別支援学校7校に大会参加国を割り当て、応援メッセージを作成

メッセージは、大会会場などに掲示したり、選手に直接渡されたりした



取組み内容と主な成果

～mission4 市民総ぐるみでの支援～

◎公立夜間中学の検討

これまでの本市の動き

公立夜間中学とは

様々な事情により義務教育を十分に受けられなかった人などを対象に、夜の時間帯等に授業を行う公立の中学校



- ①自主夜間学級の取組み
 - ・青春学校（平成6年～）
⇒穴生・中学校「夜間学級」
 - ・よみかき教室・城野（平成10年～）
⇒城南中学校「夜間学級」
 - ・「北九州市に夜間中学をつくる会」（～平成23年度末）
- ②公立夜間中学のアンケート調査（令和3年度）
598件のご回答をいただき、本市においても一定のニーズがあることを確認

北九州市公立夜間中学校を考える会議（令和4年5月設置）での議論を踏まえ、「北九州市公立夜間中学校設置基本計画（素案）」を作成し、パブリックコメントを実施。その結果を取りまとめて計画を確定した後、令和5年度に改修工事などを行い、**令和6年4月の開設をめざす**予定



基本計画（素案）の概要

- 校舎：北九州市立菊陵中学校内に設置（小倉北区下富野）
- 開設：令和6年4月の開設をめざす
- 入学時期：春に加え、秋入学も認め、年2回を可能とする
- 費用負担：授業料や教科書は無償で配布
学用品や学校行事など一部自己負担は必要（通常の中学校と同様）



17

取組み内容と主な成果

～mission5 未来を見据えた環境整備～

◎35人以下学級の推進

本市では、**国に先駆けて少人数によるきめ細かな指導体制を整備**するため、平成19年度より少人数学級編制の検討を開始。
平成20年度に小学1年と中学1年で35人以下学級を導入
現在、**小学校全学年と中学1年で35人以下学級を導入**
中学2、3年は校長の裁量による35人以下学級を導入



35人以下学級の効果
(現場の声)

【生活指導面】

- ・一人一人の児童をしっかりと見ることができ、落ち着いた生活ができた
- ・特別な支援を要する生徒、不登校傾向のある生徒への個別対応がしやすい

【学習指導面】

- ・個に応じた指導がしやすく、補充学習などきめ細やかな個別対応がしやすい
- ・話し合い活動などにも取り組むことができ、主体的で対話的な学びにつながった

【業務改善面】

- ・成績処理や丸つけなどの学級業務等に関して担任の負担が軽減された

年度	本市の状況	国の状況（参考）
H19	(少人数学級編制の検討開始)	
H20	小1 35人以下学級導入 中1 35人以下学級導入	
H21	小2 35人以下学級導入	
H23		小1 学級編制基準の引き下げ
H24	小3 35人以下学級導入	
H27	小4 35人以下学級（裁量制）導入 中3 35人以下学級（裁量制）導入	
H29	小5 35人以下学級（裁量制）導入 小6 35人以下学級（裁量制）導入 中2 35人以下学級（裁量制）導入	
R3	小4 35人以下学級導入 小5 35人以下学級導入 小6 35人以下学級導入	小2 学級編制基準の引き下げ

18

取組み内容と主な成果 ~mission5 未来を見据えた環境整備~

◎学校規模の適正化

教育環境の整備による教育効果の向上を図るため、市立小・中学校の規模のあり方について基準を策定し、学校規模適正化を推進

◎特別支援学校の整備

児童生徒数の増加や施設・設備の老朽化に対応するとともに、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育や必要な支援を行うため、特別支援学校の再編・建て替えを推進

年度	小・中学校	特別支援学校
H19	黒崎中央小学校開校（黒崎小学校、陣山小学校を統合）	
H20	すがお小学校開校（道原小学校、山本小学校を統合）	
H22	門司中学校開校（風師中学校、門司中学校を統合）	
H28	 【ひびきの小学校】	門司総合特別支援学校開校 （門司特別支援学校、企救特別支援学校、小倉南特別支援学校を再編） 小倉総合特別支援学校開校 （北九州特別支援学校、企救特別支援学校を再編）
H29	ひびきの小学校開校（高須小・光貞小の一部を分離）	
R元	松ヶ江北小学校開校（伊川小学校、松ヶ江北小学校を統合） 中井小学校開校（北小倉小学校、中井小学校を統合）	 【小倉北特別支援学校及び北九州中央高等学園（パース図）】
R2	花房小学校開校（花房小学校、花房小学校安屋分校を統合）	
R4	くきのうみ小学校開校 （修多羅小学校、古前小学校を統合）	
R5以降	小森江小学校開校予定（R5.4） （小森江東小学校、小森江西小学校を統合）	小池特別支援学校建て替え（R5年度中） 小倉北特別支援学校及び北九州中央高等学園建て替え（R7年度中）

19

取組み内容と主な成果 ~mission5 未来を見据えた環境整備~

◎学校施設の改修等

①施設の耐震化

安全・安心な学校施設のため、平成19年度から本格的な耐震化に着手
平成27年度末までに耐震化を完了



	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
本市	35.2%	42.5%	48.9%	60.6%	71.3%	83.0%	93.2%	100.0%
全国	67.0%	73.3%	80.3%	84.8%	88.9%	92.5%	95.6%	98.1%

（各年4月時点）

②トイレの洋式化

平成29年度から「学校トイレ整備事業」を開始
防災機能強化のため、体育館トイレの整備の後、令和元年度から校舎トイレの整備に移行。
洋式化率の低い学校から順に10校ずつ整備を実施中

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
洋式化率（%）	51.3	53.1	54.4	56.5	59.9



【工事前】



【工事後】

③小・中学校の普通教室へのエアコン設置

良好な学習環境を確保するため、平成27年度より全ての市立小中学校の普通教室等、及び市立幼稚園の保育室にエアコンを設置。**平成30年度に設置完了**

【設置状況】

平成27年度：中学校5校 平成28年度：中学校51校、小学校43校 平成29年度：小学校61校 平成30年度：小学校20校、幼稚園4園

20

取組み内容と主な成果

～mission5 未来を見据えた環境整備～

◎GIGAスクール構想の実現推進

環境整備

ICT機器を活用した学び

①インターネット接続環境の整備

学校内の各教室に無線アクセスポイントを設置し、校内の無線LAN環境の整備を完了
各児童生徒が高速・大容量の通信が可能に
※令和3年3月31日現在199校完了（100%整備）
（LTEモバイルルータ整備5校を含む）



②タブレット端末の導入

児童生徒が1人1台使用できるよう、令和2年12月末までに各学校にタブレット端末を整備（教員用のタブレット端末も整備）



年	月	整備完了状況
R2	8	小学校6年生 中学校3年生
	11	中学校1, 2年生
	12	小学校1～5年生 特別支援学校



①授業での活用

★総合的な学習の時間
「インターネットで調べてみよう」
インターネット関連企業とオンラインでつなぎ、検索方法、ネットリテラシーを学ぶ



★道徳科「自分のことについて考える」
文章を読んだ後、「正直さ」について自分の考えを画面にマーキングし全体共有
自分の考えを可視化し発表し合うことで、考えを深めることができる



②教員への活用支援

【GIGAサポートデスク】

教員のICT活用の相談窓口として設置し、校内研修支援、授業支援等を実施



【GIGAスマートスクール事業】

ICT活用が苦手な教員のサポートや校内体制づくりの助言を行い、ICTアドバイザー教員を育成

取組み内容と主な成果

～そのほかの取組み～



◎新型コロナウイルス感染症対策の取組み

①学校での主な感染症対策



家庭での健康観察結果をチェックリストへ記載



登校時の体温チェック（※実施校のみ）



登校時や給食前後など、手洗い・手指消毒を徹底



足型を貼り、手洗い時などの距離を確保



教室は対角に2方向の窓を同時に開けて換気



CO₂モニターによる二酸化炭素濃度の測定

②専門家チームを結成

学校での感染対策等について、疫学的見地から助言を受けることを目的に、

「新型コロナウイルス感染症対策子ども専門家チーム(CCAT)」を結成

○結成日：令和2年6月18日（木）（五十音順）

役職	氏名
北九州市保健福祉局保健所 医務業務課長	有門 美穂子
北九州市医師会学校保健担当理事	藤野 時彦
産業医科大学医学部小児科学教授	楠原 浩一
北九州市立八幡病院 小児救急センター長	西山 和孝
北九州市医師会感染症対策担当理事	石井 義輝
北九州地区小児科医会会長	吉田 雄司

※アドバイザー：松本哲郎

（保健福祉局医務監・産業医科大学名誉教授）

※オブザーバー：安藤文彦（北九州市医師会副会長）、川原尚行（NPO法人ロシナンテス理事長）

取組み内容と主な成果 ～そのほかの取組み～

◎図書館の取組み

誰にでも開かれた「知」の拠点として、気軽に読書に親しみ、未知の本に出会い、読書の質を高めるきっかけとなるべく、市立図書館を整備・運営
特に子どもに対しては、楽しく自主的に読書に親しむことができる環境を整備することで、子どもの生きる力を育み、「読書好きな子ども日本一」の実現に向けた取組みを進める



年度	代表的な内容
H19	門司図書館新門司分館開館 (H19.4)
H21	若松図書館島郷分館移転開館 (H21.7)
H22	小中学校における読書活動推進モデル事業(学校図書館嘱託職員、ブックヘルパーの公募)開始 (H22.5) 市立図書館で図書返却フリー制度開始 (H22.8)
H23	北九州市子ども読書プラン(第2次北九州市子ども読書活動推進計画)策定 (H23.6) 門司図書館大里分館移転開館 (H23.7)
H24	市立図書館で図書のインターネット予約開始 (H24.4) 八幡西図書館開館 (H24.7)
H25	八幡図書館大池分館廃館 (H25.6)、戸畑図書館移転開館 (H26.3)
H27	北九州市子ども読書活動推進条例の公布施行 (H27.7) 新・北九州市子ども読書プラン(第3次北九州市子ども読書活動推進計画)策定 (H28.3)
H28	八幡図書館移転開館 (H28.4)
H29	中央図書館勝山分館廃館 (H29.8)、中央図書館企救分館廃館 (H30.2)、国際友好記念図書館廃館 (H30.3)、 戸畑図書館戸畑分館廃館 (H30.3)、小倉南図書館開館 (H30.3)
H30	子ども図書館開館 (H30.12)、八幡図書館八幡東分館廃館 (H31.3)
R2	八幡図書館折尾分館移転開館 (R2.4) 北九州市子ども読書プラン(第4次北九州市子ども読書活動推進計画)策定 (R3.3)
R3	子ども電子図書館の開設 (R3.4)
R4	八幡図書館折尾分館移転開館 (R4.7)



【八幡西図書館】



【子ども図書館】



【子ども電子図書館】

取組み内容と主な成果 ～そのほかの取組み～

★北九州市立高等学校

教育目標に『「生きる力」を育成する』を掲げる本市唯一の市立高校
昭和38年に市立戸畑商業高校として創立し、今年創立60周年を迎える



①特色ある教育の推進



「市高タイム」、「探究的な学び」、「大学・企業コラボ」を導入し、市校生の輝かしい未来をデザインするための特色ある教育を推進

市高タイム

学業、資格取得、部活動の3本柱をもとに構成されるたくさんの講座の中から、生徒が個人の興味・関心や進路希望に応じて自ら講座を選択し、受講する時間



探究的な学び

SDGsや地域社会に沿った課題など、3年間を通したテーマに生徒が主体的に取り組むことができる学びを設定



大学・企業コラボ

様々な外部人材と交流する機会を設定
学校の枠から飛び出し、視野を広げ、魅力ある人材を目指す



②外部人材の登用

市高の魅力向上を推進するため、市立高校のこれまでの実績、地域の教育資源などを活用しながら、大胆な発想と幅広いネットワークを活かすことができる校長候補者を外部から登用
応募者489名から、組織運営の経験が豊富で高いマネジメント能力などを有する1名を決定

